



大学受験期に偏差値を約20上げたお話

◇今回は、松原大地さん（早大法学部・コンサルティング会社勤務）のレポートです！

成績下位から10ヶ月で、世間で超難関と言われている大学に合格した実話です
※ただしあり得ないくらい努力しました

松原 大地

現在、関高校で毎日を過ごしているみなさん。はじめまして。2012年卒の松原大地です。

「活躍する卒業生」のコーナーに載せる文章にはマッチしていないかもしれませんが、僕が大学生活や社会人生活で何に取り組んでいた（る）のか？なんて話は、この記事を読んでいるあなたにとってそれほど価値ある内容になるとは思えませんでしたので、最後にサラッと紹介するとして（先生ごめんなさい笑）、これから先、数ヶ月、もしくは1、2年後に必ずやってくる「大学受験」の話をしたと思います。僕が大学受験期に偏差値を約20上げたお話です。少しは興味を持っていただけでしょうか。

自慢話っぽくなってしまいそうですが、読了後あなたの「学習」に対する取り組み方に少しでも変化があれば嬉しいです。

僕は高校1、2年のころ、勉強のできる生徒ではありませんでした。校内のテストでは、大体230位くらい（281人中）、後ろから数えた方が早かったです。

当時、勉強ができる人のことを「あいつはもともと頭がいいやつだ」と思っていて、勉強ができるという生まれ持った“才能”だと思っていました。これを読んでいる校内テスト200位台のあなた、模試の判定がEばかりで落ち込んでいるあなた、一度は同じようなこと思ったことはありませんか？

僕が受験勉強を始めたのは3年生になったばかりの4月。志望大学が早稲田大学だと三者面談で言った時は「何言ってるんだ？」と突っぱねられたのを覚えています。それも当然。偏差値の開きは20あり、それを全国の受験生（浪人生も含め）がこれからどんどんレベルを上げていく中、それを引っくり返すなんて、現実的ではありません。

では、それを成し遂げたポイントは何にあったのか。単純な話で「なぜ？を理解する」という取り組み方の変更でした。つまり、問に対する解の間に存在している論理（回答に至るプロセス）を理解するということです。至極当たり前の話なのですが、それ以前の問題の解き方は、「解く、答え合わせする、一喜一憂する」だけ、正解か不正解か、という結果しか見ていませんでした。正解しても、“できたつもり”になっていただけで、次に同じ論理で解ける問題に当たった時に不正解となるときもしばしば。（これはあなたも思い当たる節があるはず 笑）

問題の解き方は、「問題を解く→答え合わせする→解説を読む→教科書の解説部分に関する部分を読み直す」に変わりました。これを初めてから、問と解の間にある論理を理解することができ、基本問題を取りこぼすことは無くなりました。基本を抑えたら、次は初見の発展問題を回答することに慣れることです。解き方のプロセスは変わりません。

いかがでしょうか？ 上記については、暗記科目以外のすべての科目に当てはまります。「やったつもり」と「できたはず」で満足する勉強では身に付きません。少しでも参考になれば幸いです。

さて、早稲田大学の法、教育、国際教養に合格し、法学部に進学しました。

大学時代では、ホームステイの団体を立ち上げて外国人留学生の日本でのホームステイ体験の仕組みを作ったり、クラウドファンディングで300万集め、日本酒の体験イベントを開催したり、スペインと中国に留学したりと刺激的な経験をしました。



↑ 留学先の友人たちと旅行先のポルトガルのビーチにて

今現在は、学生時代に知り合った本気で尊敬できる人の会社でコンサルタントとして働いています。

最後になりますが、受験勉強は頭がよくなるためにやるものではありません。この先50年60年先まで続く将来の選択肢増やし、可能性を広げるための受験勉強です。これは受験勉強を終えて、大学生活を終え、社会人になってから実感できたことですが、「受験勉強」を長い目で見た時の本質だと思います。学歴社会では無くなっていると言われてはいますが、学歴がある程度のフィルターになっている事実はまだ存在しています。社会人になってからも「〇〇大学出身」というのが、大きな力になることもしばしばです。

高校生活は一生に一度です。“今”を楽しむことに全力を注ぐことは間違っていることではありません。それがあなたの決めたことなら大いに結構ですし、むしろ正しい判断なのだと思います。ただ、大学に進学するなら、先の50年60年のために、残りの期間だけ頑張ってみませんか？ 努力はあなたを裏切るかもしれません。ただ、報われるのは努力した人間だけです。特に、受験勉強においては。

関高校の落ちこぼれより。恩師への感謝と自戒の念を込めて